



Ikuyo Nakamichi



Akiko Sakikawa



Yoshio Watanabe



Kaoru Hanazaki

Satoshi Mizukoshi

Fortepiano

仲道郁代

渡邊順生

崎川晶子

Tenor

水越 啓

Violin

渡邊慶子

Viola

深沢美奈

Violoncello

花崎 薫

Contrabass

西澤誠治

お話

西原 稔

ベートーヴェン 愛したピアノ

ナネット・シュトライヒャー作
フォルテピアノ製作200年記念



Nannette Streicher, Wien 1818

ベートーヴェン Ludwig van Beethoven

ピアノ・ソナタ 第26番 変ホ長調 op.81a 《告别》

チェロ・ソナタ 第4番 ハ長調 op.102-1

連作歌曲集《遙かなる恋人に寄す》 op.98

ピアノ、ヴァイオリン、チェロの伴奏による諸国の民謡

シューベルト Franz Schubert

ピアノ五重奏曲 イ長調 D677 《鱒》より第4楽章

アレグロ イ短調《人生の嵐》 D947 (四手連弾)

主催：朝日新聞社／シュトライヒャー・ピアノ製作200年を祝う会

協力：ボランティアチーム・如水コンサート企画

2018年10月1日[月] 19:00開演

● 浜離宮朝日ホール

全席指定 5000円

ご予約・お問合せ：オフィシャルシュ tel.03-3565-6771

www.officearches.com

チケット取扱い：

朝日ホールチケットセンター tel.03-3267-9990 (日・祝除く10:00～18:00)

チケットぴあ tel.0570-02-9990 <https://t.pia.jp/classic/> Pコード 122-365

*就学前のお子様のご入場はご遠慮いただいております。託児サービスをご利用ください。

イベント託児・マザーズ (要予約) 0120-788-222



Nannette Streicher, Wien 1818

ベートーヴェン 愛したピアノ

2018年10月1日 [月]

19:00開演 (18:30開場)

このコンサートで使用するピアノは、1818年にウィーンでナネット・シュトライヒャーによって製作された音域FF-f4 (6オクターヴ) のフォルテピアノ。ナネット・シュトライヒャー (1769-1833) は、ウィーン式アクションの創案者である天才的ピアノ製作家J・A・シュタインの娘として南ドイツのアイクスブルクに生まれたが、94年ウィーンに移り、当代随一のピアノ製作家としての声望を誇った。このピアノは、シュトライヒャーが1809年から1820年頃に至るほぼ10年間、基本的な仕様を変えずに作り続けた、彼女としては最も成功したモデルで、弱音の微妙なニュアンスと力強さを兼ね備え、ベートーヴェンが長らく待ち望んだピアノとして、彼を驚喜させた。シュトライヒャー夫妻のベートーヴェンとの親交は40年の長きにわたるもので、単に楽器作者としてのみならず、彼の生活の全般にわたって種々の助言と助力を与え、彼にとって最も力強い友人であり続けた。



仲道郁代 Ikuyo Nakamichi, Fortepiano

日本音楽コンクール第1位、エリザベート王妃国際コンクール入賞ほか国内外で受賞を重ね、1987年にデビュー。これまで日本の主要オーケストラと共演するほか、パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルをはじめとする海外オーケストラとの共演も多い。ベートーヴェンをライフワークとし、2002年から5年間に渡り開催された諸井誠&仲道郁代「ベートーヴェン全32曲のピアノ・ソナタを語り、聴く会」をはじめ、ソナタと協奏曲の全曲演奏会を度々行ってきた。CD録音では「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全集」(レコード・アカデミー賞)ほか、古楽器での録音でも高い評価を得ている。2017/2018シーズンは、Road to 2027と題し、ベートーヴェンを核とした10年間のリサイタル・シリーズをスタート。著書に『ピアニストはおもしろい』(春秋社刊)など。一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学特任教授。公式ウェブサイト <http://www.ikuyo-nakamichi.com>



渡邊順生 Yoshio Watanabe, Fortepiano

チェンバロ、クラヴィコード、フォルテピアノ奏者、指揮者として活躍。論文執筆や楽譜校訂も手がける。2010年度サントリー音楽賞受賞。1950年鎌倉の生まれ。一橋大学社会学部卒業。アムステルダム音楽院にてソリスト・ディプロマ及びブリュクセルズ取得。小林道夫、グスタフ・レオンハルトにチェンバロを師事。ブリュッヘン、ビルスマ、エルウィス、エグモントら欧米の名手・名歌手たちと多数共演。ソニー、コジマ録音、セシル・レコード等から多数のCDをリリース。『モーツァルト：フォルテピアノ・デュオ』[共演：崎川晶子] (2006) 及び『フレスコバルディ/フローベルガー：チェンバロ作品集』(2016) でレコード・アカデミー賞受賞。著書『チェンバロ・フォルテピアノ』(東京書籍、第3刷2009)『バッハ・古楽・チェロ〜アンナ・ビルスマは語る〜』(2016) は新聞・雑誌等で絶賛された。現在、上野学園大学客員教授、東京音楽大学、桐朋学園大学講師。



崎川晶子 Akiko Sakikawa, Fortepiano

桐朋学園大学ピアノ科卒業。ピアノを故井口基成、兼松雅子らに師事。チェンバロを、シャルル・ケーニッヒ、渡邊順生、パリの古楽コンセルヴァトワールでノエル・スピースに、またフォルテピアノをパトリック・コーエンに師事。外国アーティストとも共演多数。現在ソロ、室内楽など多方面で活躍中。ソロCD「モーツァルトの光と影」(セシルレコード)、「アンナ・マクダレーナ・バッハのための音楽帳」、「ジャン・フィリップ・ラモの肖像」(ALM RECORDS) 他をリリース、高評を得る。「モーツァルト・フォルテピアノ・デュオ」(渡邊順生氏と共演) は2006年度レコードアカデミー賞(器楽部門) 受賞。「音楽の泉シリーズ」主宰。



水越 啓 Satoshi Mizukoshi, Tenor

東京藝術大学声楽科卒業、同大学院古楽科修士課程修了。デン・ハーグ王立音楽院古楽科(声楽専攻) 卒業。オランダを中心に、バッハをはじめとする宗教音楽のスペシャリストとしてヨーロッパ屈指のグループと共演を続けている。主要メンバーとして参加するソロ・アンサンブルグループVox Luminis(ベルギー)、Sette Voci(ドイツ)及びバッハ・コレギウム・ジャパンの数多くの公演、レコーディングに参加、ヨーロッパの音楽誌等でその演奏が高く評価された。2017年7月、ALM RECORDSより「ベートーヴェン歌曲選集〜初期歌曲篇〜」をリリース。レコード芸術他にて激賞される。これまでに声楽を村上純子、高文二、野々下由香里、Rita Dams、Peter Kooij、Gerd Türk の各氏に師事。



渡邊慶子 Keiko Watanabe, Violin

東京藝術大学音楽学部器楽科を卒業後、オランダに渡り、アムステルダム音楽院にてヤープ・シュレーダーに、また、ハーグ王立音楽院にてシグスワルト・クイケンにバロック・ヴァイオリンを師事。「レオンハルト・コンサート」、「ラ・ブティ・バンド」、「18世紀オーケストラ」等々、数々の古楽器オーケストラのメンバーとして活躍した。帰国後は、チェロのアンナ・ビルスマをはじめ、内外の名手たちと共演。1991年には「アーカディ音楽祭」その他の招きで渡米し、好評を博した。独奏、室内楽、オーケストラ等で活躍。1994年より2000年まで日本古楽コンクール(甲府)の審査員を務め、98年からは毎夏、都留音楽祭講師を務めた。



花崎 薫 Kaoru Hanazaki, Violoncello

東京藝術大学在学中、ドイツ学術交流会給費留学生としてベルリン芸術大学留学。1981年、第50回日本音楽コンクール、チェロ部門第3位入賞。1986年、文化庁在外研修員としてドイツ、カールスルーエ音楽大学に留学。長年にわたり、新日本フィルハーモニー交響楽団の首席チェロ奏者として、歴代の指揮者のもとで、オーケストラを支えた。現代音楽のアンサンブル、東京シムフォニエッタのメンバーとしても活躍し、2011年同団としてサントリー芸術財団、佐治敬三賞を受賞。現在、愛知県立芸術大学音楽学部教授、東京藝術大学、武蔵野音楽大学非常勤講師、大阪フィルハーモニー交響楽団客演首席奏者。2013年、ベートーヴェン、チェロとピアノのための全作品のCDを発売。



東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞東京本社新館2階 03-5541-8710

○都営大江戸線築地市場駅下車A2出口すぐ ○東京メトロ日比谷線築地駅2番出口・東銀座駅6番出口(徒歩約8分) ○JR山手線・東京メトロ銀座線新橋駅(徒歩約15分)